



新しい年にロータリーの新しい 組織形態を・・・CLPの導入

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹** (小樽RC)

今年度、私は『形から入るCLP』を提言しております。また、過去2ヶ年の調査にもとづく答申をクラブ奉仕委員会よりうけ、第2510地区のCLPモデルを委員会と協議して参りました。

このほど試案を得ましたので、皆さんへ報告いたします。

CLPへの取り組み

2000年以降、国際ロータリーは活動を国際社会に訴える目的から、機構・進路の再検討を行い、『ロータリーとは国際奉仕の団体である』との見解によりクラブ組織の変革を提唱しております。

2004年、RIはクラブ組織の変革案『クラブ・リーダーシップ・プラン』（新しい推奨クラブ細則）を提唱しました。

これをうけ第2510地区では2008年度よりクラブの再編に取り組み、CLPと並行して進めるDLPによる組織の改変を実施し、クラブのCLPの採用の準備を整えました。今年度、私は公式訪問に伺い、各クラブのCLPの採用をお願いしております。

CLPの導入は奉仕の第二世紀においてロータリーが安定、成長、成功を遂げるための組織の改変です。クラブ組織を効率の良いものにし、会員の拡充を図り、奉仕活動を効率のよい、社会から眼に見える形にするのが主眼です。また、RIの事業に積極的に参加し、地域と国際社会の結びつきを強固にするのも目的です。

第2510地区内のCLPへの取り組み

地区では先行クラブについて過去3年間、調査を致しました。これらのクラブの多くでは、CLPの5常任委員会のクラブ組織形態を採用している一方、これまでの5大奉仕を奉仕プロジェクトの小委員会の形で残しています。結果として、改変前の組織とCLP採用後との違いが不明確になっている面があります。

「CLPを採用してみたけれど、一体これまでと、どこが違うのか」といった感触をもつクラブもあります。

ここで奉仕プロジェクトの形態を不明確にしているのは職業奉仕の領域です。わが国におけるロータリーの発展の原動力は職業倫理です。ロータリーの創成期に職業奉仕が社会に果たした役割は極めて重要で在り、職業奉仕なくして、ロータリーを語ることは出来ません。

一方、CLPの奉仕プロジェクトで取り扱うのは職業奉仕の対外的な活動領域です。『何でも相談』『出前授業』等がこれに当たります。したがって、職業奉仕の『クラブでの内向きの領域→職業倫理』と一線を引き、ロータリークラブの原点でもある職業倫理の領域を今後のクラブのアイデンティティーづくりの場での研修事項とし、研修での一つの柱として扱うという考えを私は持ちます。

CLPモデルの提案

また、CLPについて引き続き勉強するための協議の場を必要としている、との指摘も多く見られます。これはCLPが良くわからないので採用を当分見合わせる、と言う立場をとるクラブと共通する状態といえます。



この状態に応える組織として、3～5年の時限の『CLP特別委員会』を採用に際して設置することを考えました。クラブの改変の目標・年次計画を設定し、実行してゆく主体を明確にすることが必要です。また合わせて職業倫理もこの特別委員会の所掌とします。

次に、CLPを取り入れ、これを実のあるものにするには、クラブ内での新会員、会員の継続的な研修が欠かせません。この研修プログラムの充実のためには地区にRLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）などの研究部門を設けることも必要になると思います。これ等を反映したのが第2510地区推奨CLPモデルです。

第2510地区推奨CLPモデル

クラブ理事会	常任委員会	CLP導入のポイント	小委員会を設置する場合
・会長・直前会長 ・会長エレクト・副会長 ・理事・幹事・会計 ・会場監督	CLP特別委員会	①『効果的なロータリー・クラブとなる』ためのクラブ運営目標を立案する	
		②立案を実施する長期年次計画の設定する	
		③設定の年次目標を実施する	
		④実施の継続にむけて年度から年度への指導者の育成する	
		⑤クラブ細則を独自に修正する	
		⑥日本のロータリークラブの特徴である『職業倫理』を研究・研修を行う	
	クラブ管理運営 (クラブ幹事・会計が参加)	①クラブ管理運営を行う	例会プログラム 出席 クラブ会報 雑誌
		②定期的な親睦を深める機会を設ける	親睦活動
	会員増強	①会員基盤を維持拡大する	会員勧誘・会員選考・職業分類
		②包括的な研修を立案し実施する『クラブレベルの研修プラン』を作成する	会員候補者の教育 新会員のためのオリエンテーションと教育
		③定期的かつ首尾一貫した『クラブレベルの研修プラン』を提供する	会員の継続教育・退会防止
	クラブ広報	①ロータリーに関する情報を対外的に提供する	
		②奉仕プロジェクトや活動を広報する計画の立案し実施する	
	奉仕プロジェクト	①成果のある対外的な奉仕プロジェクトを実施する 『眼に見える、成功する奉仕プロジェクト・社会のニーズを取り上げたプロジェクト』を取り上げ、成功させる	職業奉仕 社会奉仕・人間尊重・地域発展 世界社会奉仕・地球保全 共同奉仕・募金活動 ロータリーボランティア 新世代奉仕（青少年）
		②会員全員が活発に関与するプロジェクトとする	
ロータリー財団	①ロータリー財団を支援する		
	②世界と係わる機会を持つ		
	③米山奨学を支援する		
その他の特別委員会			
クラブ協議会	①会員の計画参加と活動情報の伝達のためのクラブ協議会を実施する		
地区研修・RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）との連携をとる	①クラブと地区とのコミュニケーションを確実化する		
	②クラブ・レベルを超えた指導者を育成する		

このモデルは会員数20～50人を対象にしておりますが小規模クラブでは『クラブ運営管理と会員拡大を一体化したクラブ内委員会』と『広報と奉仕プロジェクトを一体化したクラブ外委員会』とすることが望まれます。また50人を越える大規模クラブではクラブの実情に応じた小委員会を設置する形を提案いたします。次年度のクラブ組織を考える時点で、是非ともこのモデルを参考にいただければ、と考えております。

（2012年1月、地区クラブ奉仕委員会より『CLP報告2011-2012』を送付予定です）